

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2002年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地	面積(㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	亀居遺跡第56地点	亀久保2-13-14	172	個人住宅	—	2002.11.5~11.21	教育委員会で本調査
2	鶴ヶ舞遺跡第6地点	鶴ヶ舞1-84	474	個人住宅	2002.9.10~9.13	—	試掘調査
3	江川南遺跡第16地点	東久保1街区	3,752	給油所	2002.9.24~10.4	—	試掘調査
4	江川南遺跡第17地点	東久保1街区20,22,23	474	土地区画整理	2002.10.29~11.11	—	試掘調査
5	亀久保堀跡遺跡第27地点	東久保31街区2,3画地	980	店舗	2002.6.10~6.11	—	試掘調査
6	東久保遺跡第50地点	東久保3-22	102	個人住宅	2002.9.24	—	試掘調査
7	東久保遺跡第51地点	東久保18-11画地	155	個人住宅	2002.12.3	—	試掘調査
8	東久保遺跡第52地点	東久保4街区3画地	64	個人住宅	2003.2.6~2.7	—	試掘調査
9	東久保西遺跡第15地点	東久保9街区3画地	225	個人住宅	2003.2.3~2.5	—	試掘調査
10	東久保南遺跡第27地点	東久保63街区1画地	610	共同住宅	2002.5.29~6.7	—	試掘調査
11	東久保南遺跡第28地点	東久保60街区3・4画地	322	共同住宅	2002.9.13~9.21	—	試掘調査
12	東久保南遺跡第29地点	東久保64街区1・4画地	736	駐車場	2003.3.17~3.20	—	試掘調査
13	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	165	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
14	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	155	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
15	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	132	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
16	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	140	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
17	西ノ原遺跡第123地点	大井・苗間19街区10画地	252	共同住宅	2002.9.3~9.9	—	試掘調査
18	西ノ原遺跡第124地点	苗間137-2	524	個人住宅	2002.10.2~10.6	2002.10.8~10.11	教育委員会で本調査
19	西ノ原遺跡第125地点	旭1-8-2	182	個人住宅	2003.2.14~2.19	—	試掘調査
20	中沢前遺跡第20地点	大井・苗間33 35-8-1	762	老人介護施設	2003.2.3~2.5	2003.4.7~6.3	試掘後、調査会で本調査
21	中沢前遺跡第24地点	大井・苗間30-5	185	個人住宅	2003.2.7~2.13	—	試掘調査
22	神明後遺跡第18地点	苗間304-1,303-6	672	分譲住宅	2002.5.15~5.25	2002.5.27~6.21	試掘後、調査会で本調査
23	神明後遺跡第19地点	苗間264-4	216	個人住宅	2002.9.18~20	—	試掘調査
24	神明後遺跡第20地点	苗間293-11	143	個人住宅	2003.1.14~1.15	—	試掘調査
25	神明後遺跡第21地点	苗間283-1	674	造成	2003.1.10~1.30	—	試掘調査
26	浄禅寺跡遺跡第22地点	苗間373-5,377-5・3・4,373-8	935	分譲住宅	2002.4.23~5.14	—	試掘調査
27	大井宿遺跡第7地点	大井・苗間37街区14画地	257	事務所	2002.4.15~4.16	—	試掘調査
28	大井宿遺跡第9地点	大井1-3-14,15	1,617	宅地造成	2003.2.26~4.3	2004.7.30~9.3	試掘後、調査会で本調査
29	大井氏館跡遺跡第14地点	大井・苗間129街区2画地	984	共同住宅	2002.5.22~6.6	2002.6.20~8.9	試掘後、調査会で本調査
30	大井氏館跡遺跡第15地点	大井・苗間126街区1画地	135	個人住宅	2002.7.24~8.2	—	試掘調査
31	大井氏館跡遺跡第16地点	大井2-242-1	677	個人住宅	2002.8.5~8.22	2002.8.23~9.5	教育委員会で本調査
32	大井氏館跡遺跡第17地点	大井1-11-9	50	道路	—	2002.11.19~12.2	教育委員会で本調査
33	大井氏館跡遺跡第18地点	大井・苗間80-6-9	476	個人住宅	2003.1.17~1.22	—	試掘調査、大井宿8地点を変更
34	本村遺跡第99地点	大井・苗間99-1	446	共同住宅	2002.6.19~21	2002.7.1~7.31	試掘後、調査会で本調査
35	本村遺跡第100地点	大井・苗間85街区7画地	463	分譲住宅	2002.8.20~8.26	—	試掘調査
36	本村遺跡第101地点	大井・苗間131-2	217	店舗併用住宅	2002.9.30~10.4	—	試掘調査
37	本村遺跡第102地点	大井・苗間101-7画地	1,264	共同住宅	2002.11.11~11.15	2002.12.11~2003.2.10	試掘後、調査会で本調査
38	本村遺跡第103地点	大井143	237	個人住宅	2003.2.13~2.18	—	試掘調査
39	本村遺跡第113地点	東原52-22	1,051	駐車場	2002.8.22	—	試掘調査、地点を後付加
40	東台遺跡第39地点	大井626-8	100	個人住宅	2002.6.3~6.20	—	試掘調査
面積合計			21,181				

IV 亀居遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25～26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺跡の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2005年3月現在まで57地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡13軒、屋外埋甕2基、集石土坑96基、土坑、ピット多数が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

2 亀居遺跡第56地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2002年11月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部

に位置し、周辺部の調査から遺構の存在が確実なため原因者と協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2002年11月5日から同年11月21日まで、調査区を南北2分割し反転して行なった。重機による表土除去後、人力で遺構プランを確認後、遺構を掘り下げた。確認面まで40cmを測る。調査の結果検出した遺構は竪穴状遺構1ヶ所、焼土跡1ヶ所、ピット38基の他、風倒木痕2ヶ所である。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。

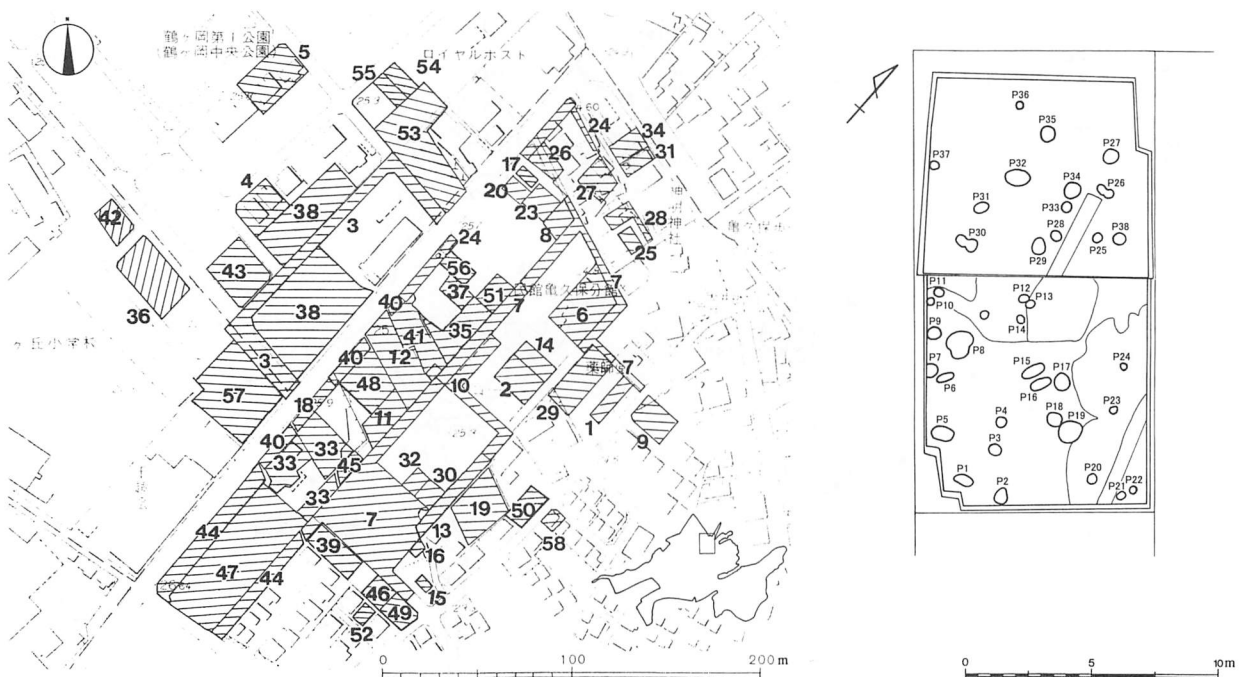
(2) 遺構と遺物

【竪穴状遺構】調査区南東隅に位置し、北側は風倒木痕により壊され、南側と東側は調査区域外へ延びる。平面形態は不明で、底面は平坦である。覆土に縄文時代中期の土器破片を多数含む。

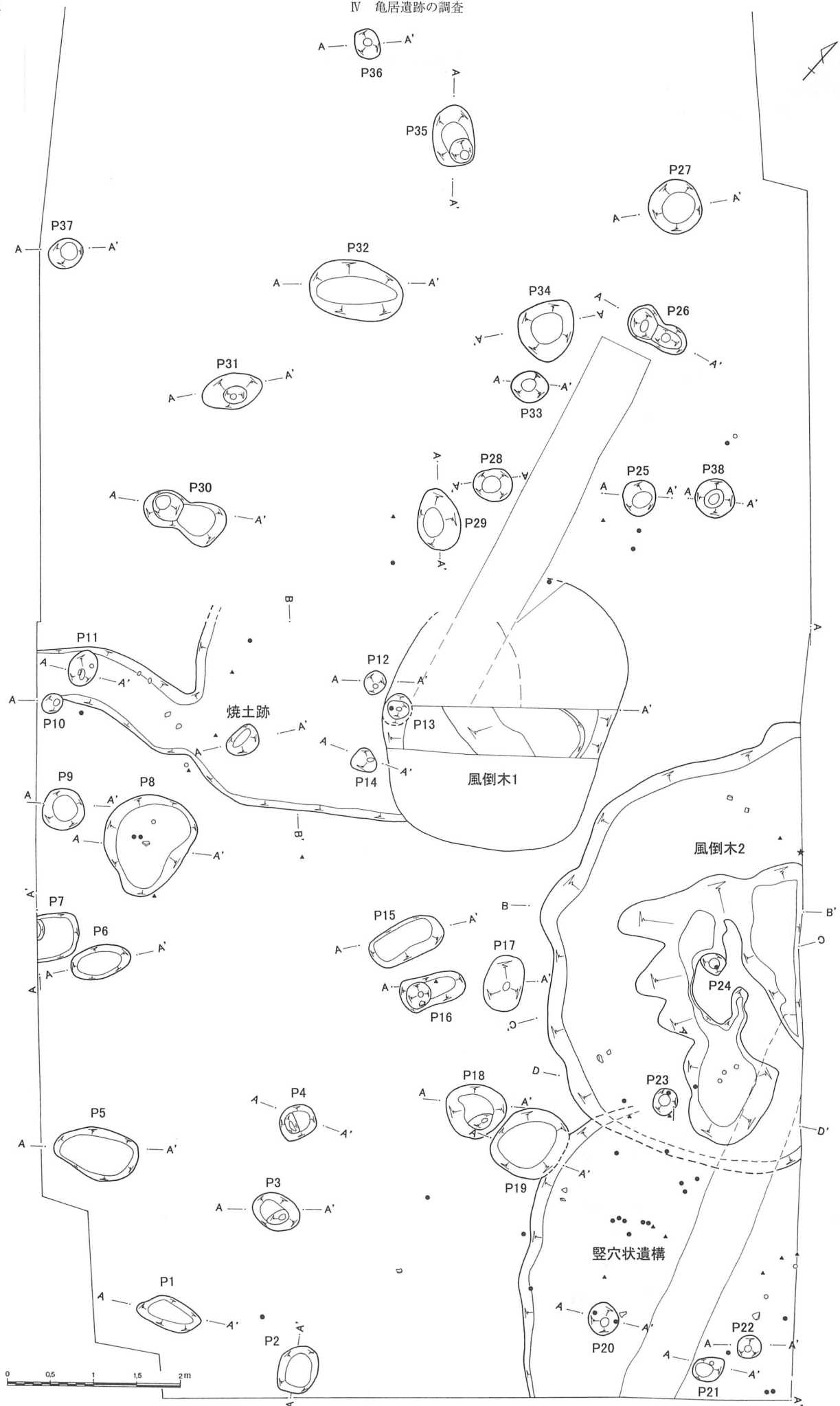
【焼土跡】調査区中央に位置する。遺構確認面で焼土を検出し、半裁・完掘調査したが、炉のような火床面は検出していない。

【風倒木痕1】調査区中央に位置する。確認面の範囲は158×134cm、中央部に設定した東西方向のトレンチ部分で深さ88cmを測る。

【風倒木痕2】調査区東側に位置する。東側は調査区域外へ延びる。確認面の範囲は254×150cm、深さ50cmを測る。

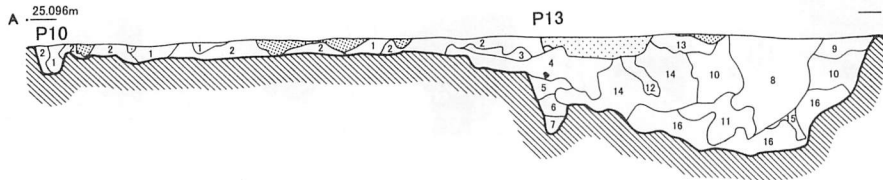


第6図 亀居遺跡の地形と調査区（1/4,000）、亀居遺跡第56地点遺構配置図（1/300）



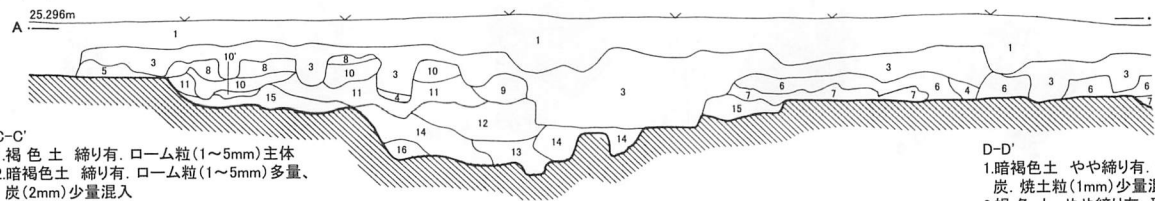
第7図 亀居遺跡第56地点焼土跡、竪穴状遺構、風倒木痕、ピット、遺物出土状況図 (1/60)

風倒木1



- B-B'
- 1.暗褐色土(明) 締り弱、ローム粒(1mm)少量、わずかに斑状のソフトブロック混入
 - 2.褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)やや多量、斑状のソフトブロックやや多量に混入
 - 2' 褐色土 2よりソフトブロックを多く含む

風倒木2



C-C'

- 1.褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)主体
- 2.暗褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)多量、炭(2mm)少量混入
- 3.褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)少量混入

D-D'

- 1.暗褐色土 やや締り有、ローム粒(1mm)・炭、焼土粒(1mm)少量混入
- 2.褐色土 やや締り有、斑状ソフトブロック多量、ローム粒少量混入

風倒木1

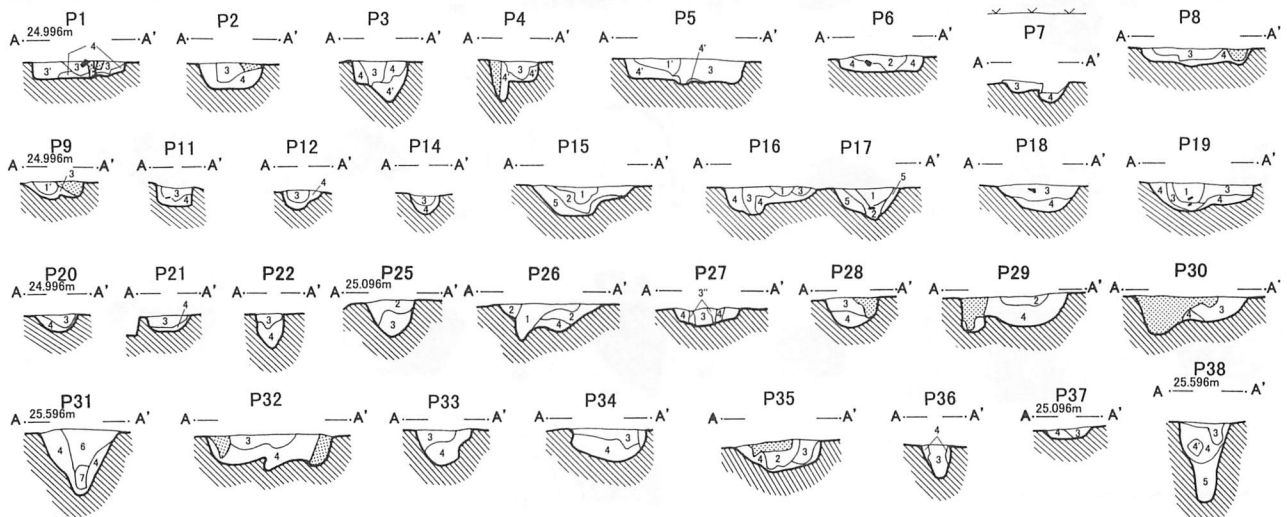
- 1.暗褐色土(明) 締り弱、ローム粒(1mm)少量、わずかに斑状のソフトブロック混入
- 2.褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)・斑状のソフトブロックやや多量に混入
- 3.褐色土(2層より明) やや締り有、暗褐色土が混入
- 4.黄褐色土 やや締り有、ソフトローム主体、土器出土
- 5.褐色土 やや締り有、斑状のソフトブロック多量に混入
- 6.褐色土(やや暗い) やや締り有、ローム粒(1~2mm)少量混入
- 7.暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)多量、ロームブロック(1~2cm)少量混入、土器出土
- 8.暗褐色土 締り有、褐色土(2cm大)が斑状に混入、土器出土
- 9.褐色土 やや締り有、ローム粒(1mm)少量混入
- 10.黄褐色土 やや締り有、ソフトローム主体に褐色土が混入
- 11.褐色土 締り有、ロームブロック(1~2cm大)少量、ソフトブロック多量に混入
- 12.褐色土(やや暗い) 締り弱、ロームブロック(1~2cm)多量に混入
- 13.黄褐色土(明) 締り有、ソフトローム
- 14.黄褐色土(明) 硬く締る、ハードロームブロック
- 15.暗褐色土 締り弱、ロームブロック(2~3cm大)多量に混入
- 16.黄褐色土 締り弱、ロームブロック(5cm大)主体、ソフトローム混入

風倒木2

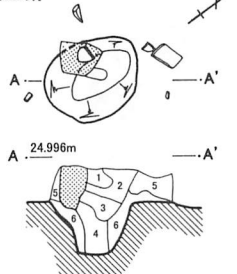
- 1.暗褐色土 耕作土
- 2.暗褐色土 ロームブロック(1~2cm大)極多量に混入、イモビツ
- 3.黒褐色土 耕作土 ロームブロック(1~2cm大)少量混入

4.暗褐色土(明)と3層の混合土、攪乱

- 5.暗褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)・斑状のソフトブロック少量混入
- 6.褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)少量、斑状のソフトブロックやや多量に混入
- 7.褐色土(明) やや締り有、斑状ソフトブロック多量、ロームブロック(1cm大)少量混入
- 8.暗褐色土 やや締り有、ローム粒(1mm)少量混入
- 9.暗褐色土(やや明) やや締り有、ローム粒(1~5mm)やや多量、焼土・炭極少量混入
- 10.暗褐色土(やや明) 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、ロームブロック(1cm大)極少量混入
- 11.褐色土 やや締り有、ソフトローム主体、ロームブロック(1cm大)少量混入
- 12.褐色土 やや締り有、ソフトローム主体、ロームブロック(1~5cm)やや多量、ローム粒(1~5mm)多量に混入
- 13.黄褐色土 締り弱、ソフトローム主体、ロームブロック(1~5cm)多量、ローム粒(1~5mm)極多量に混入
- 14.黄褐色土 締り弱、ロームブロック(1~5cm)とソフトローム・ローム粒(1~5mm)の混合土
- 15.褐色土 締り有、斑状ソフトブロックやや多量、ロームブロック(1cm大)少量混入
- 16.黄褐色土 ロームブロック
- 17.暗褐色土(やや明) 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、炭(1~2mm)極少量混入
- 18.暗褐色土 締り有、ローム粒(1~3mm)少量、ロームブロック(1cm大)極少量混入
- 19.褐色土 締り有、斑状ソフトブロック少量混入
- 20.黄褐色土 締り弱、ロームブロック(1~5cm大)とソフトロームの混合土
- 21.褐色土 やや締り有、ロームブロック(1cm大)少量混入、ソフトローム主体
- 22.褐色土 やや締り有、ロームブロック(1~5cm大)やや多量、ローム粒(1~5mm)多量に混入
- 23.黄褐色土 締り弱、ロームブロック(1~5cm大)とソフトロームとローム粒(1~5mm)の混合土



焼土跡



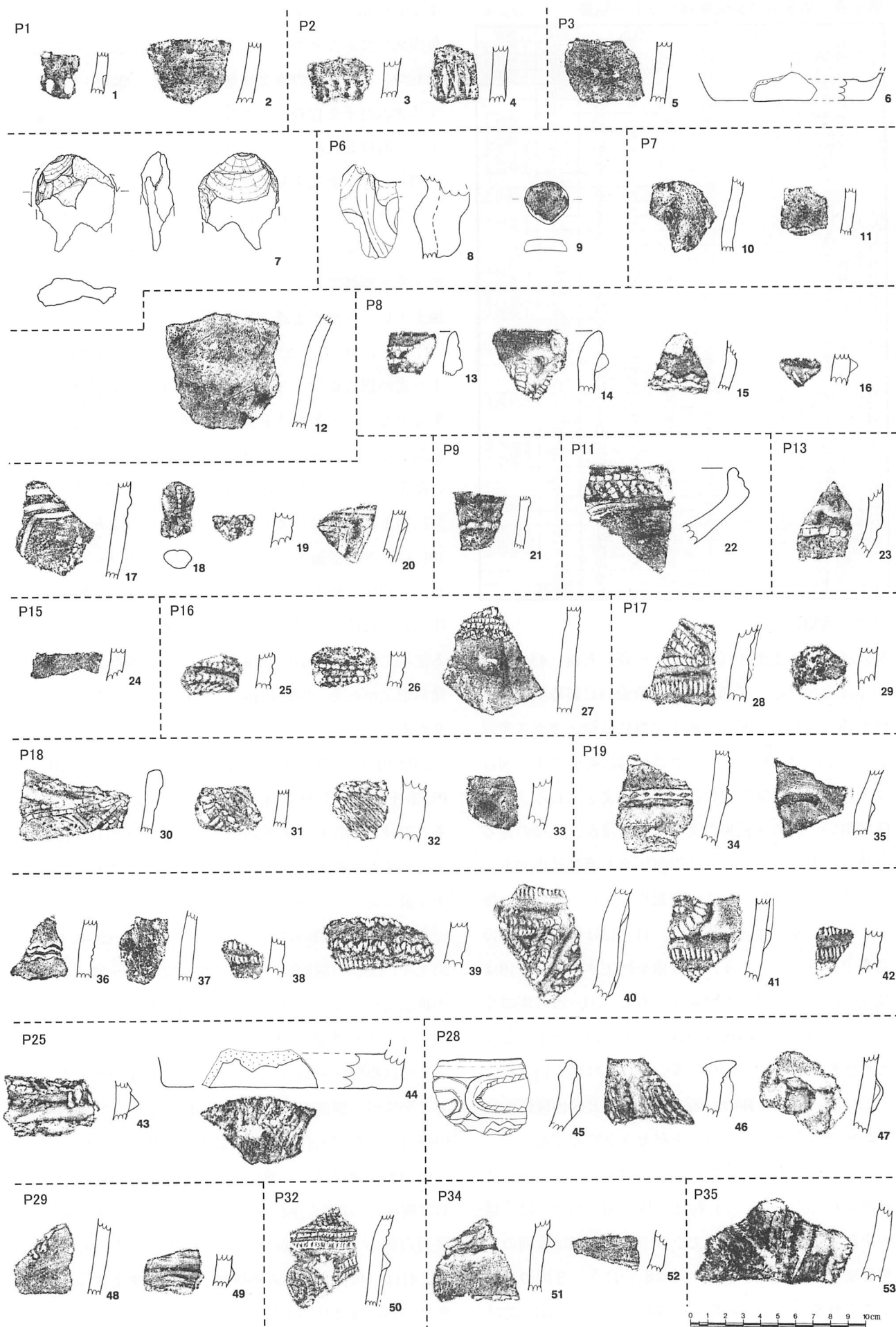
- 1.赤褐色土 締り弱、焼土の細粒主体、炭(1mm)極少量混入
- 2.褐色土(pp赤い) 締り弱、焼土粒(1mm以下)少量、炭(1mm)極少量、ローム粒(1mm)少量混入
- 3.褐色土 締り弱、焼土粒(1mm以下)・ローム粒(1~5mm)少量混入
- 4.褐色土(明) 締り弱、焼土粒(1mm以下)極少量混入
- 5.暗褐色土 締り弱、ソフトブロックを斑状に少量、ローム粒(1mm)多量に混入
- 6.黄褐色土 締り有、ロームブロック(1mm大)少量、ローム粒(1mm)多量に混入

ピット

- 1.暗褐色土 締り有、ローム粒(1mm)少量混入
- 1' 暗褐色土 1層より明るい、1と2の間
- 2.暗褐色土 やや締り有、ローム粒(1mm)やや多量、斑状ソフトブロック(2mm)少量混入
- 3.褐色土 やや締り有、ローム粒(1mm)・斑状ソフトブロック少量混入
- 3' 褐色土(やや明るい)
- 3' 3層に暗褐色土混入、3層は
- 4.褐色土 締り弱、斑状ソフトブロック主体に褐色土混入
- 4' 褐色土 締り有、3より明るい
- 5.褐色土 やや締り有、ローム粒(1mm)やや多く、斑状ソフトブロックと暗褐色土が半々に混合
- 6.褐色土 やや締り有、斑状ソフトブロック(1cm大)少量、ローム粒(1mm)多量に混入
- 7.褐色土(明) 締り弱、ソフトブロックにローム粒(1~3mm)多量に混入



第9図 亀居遺跡第56地点竪穴状遺構出土遺物 (1/3・2/3)



第10図 亀居遺跡第56地点ピット出土遺物 (1/3)

第8表 亀居遺跡第56地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考		
1	楕円形	75	×	35	53	×	22	15	土器出土
2	楕円形	55	×	45	37	×	27	19	土器出土
3	楕円形	55	×	42	7	×	5	37	土器出土
4	楕円形	42	×	36	12	×	5	19	
5	楕円形	98	×	60	85	×	44	19	
6	楕円形	72	×	38	50	×	25	12	土器出土
7	半掘り	55	×	(50)	45	×	(48)	15	土器出土
8	不整形	115	×	99	100	×	69	10	土器出土
9	円形	50	×	50	30	×	26	12	土器出土
10	円形	25	×	22	6	×	5	27	
11	楕円形	43	×	31	13	×	6	21	土器出土
12	円形	28	×	25	5	×	5	19	
13	円形	36	×	32	5	×	4	64	土器出土
14	三角形	32	×	27	7	×	5	25	
15	隅丸長方形	90	×	42	71	×	26	27	土器出土
16	長円形	76	×	40	5	×	5	28	土器出土
17	楕円形	63	×	45	10	×	7	32	土器出土
18	楕円形	70	×	60	7	×	5	37	土器出土
19	楕円形	84	×	75	65	×	61	28	土器出土
20	円形	35	×	33	10	×	10	21	
21	楕円形	39	×	28	20	×	16	16	
22	円形	26	×	26	7	×	7	27	
23	円形	33	×	26	12	×	12	38	
24	円形	26	×	22	10	×	10	45	
25	円形	40	×	40	25	×	20	27	土器出土
26	不整形	75	×	40	12	×	8	28	
27	円形	62	×	58	40	×	33	18	
28	楕円形	45	×	37	22	×	19	22	土器出土
29	楕円形	69	×	50	35	×	22	25	土器出土
30	不整形	95	×	50	15	×	15	35	
31	楕円形	70	×	42	6	×	6	46	
32	楕円形	111	×	66	92	×	32	24	土器出土
33	楕円形	42	×	35	27	×	15	28	
34	楕円形	70	×	63	37	×	34	28	土器出土
35	楕円形	70	×	46	10	×	10	36	土器出土
36	楕円形	35	×	28	10	×	10	24	
37	円形	41	×	34	20	×	20	10	
38	円形	45	×	42	13	×	9	64	

【出土遺物】

竪穴状遺構出土土器（第9図1～42）石器（43～45）

1は波状口縁と胴部の区画隆帯沿いに斜め気味に2列の押引文を施文する。胎土に白色砂粒・ガラス光沢粒と若干の金雲母を含む。2は口唇に押引による刻目を入れる。3は隆帯裾に複列の押引文を入れる。4は隆帯沿いに斜め連続押引文を入れるほか、尖端の光る三角状押引文がある。6は指頭圧痕と連続爪形文を入れ、7と8は連続爪形文の胴部片である。9と10は押引きによる波状沈線がめぐる。11～13は断面三角形の隆帯で懸垂文をつくり、11は頂を押圧する。14～19は無文で指頭圧痕のみの胴部片である。20～21の底部片のち、20の底には網状痕が残る。1～21の胎土に金雲母を含むが9～17には特に多い。以上は阿玉台Ⅱ式。

22は波状口縁深鉢の波頭下で、口縁と区画隆帯沿いに幅広押引文と爪形三角押文がセットでめぐる。23は口縁部文様帯中の隆帯舌状部片。24と25は幅広押引文が隆帯裾にかかり、三角押文を伴う類。26と27は芦様の半截工具で複列の押引文をもつ。25と26は複列の三角押文をもつ。28は隆帯と区画沿いに2～3列の三角文を入れる。29は三角押文で波状をつくる。30～32は片側を深くした三角押文をもつ類。33と34は連続爪形

文をもつ類。35と36は細い斜縄文と地文とし、粗い三角押文で波形などを付加する類。38は無文地に懸垂文をもつ。39は深鉢の無文底部破片。22～39は胎土にガラス光沢粒子を含むが金雲母を含まない。勝坂Ⅰ式後半から勝坂Ⅱ式前半といえる。

40と41は擦痕文をもつ胴部片で、42は貝殻条痕文をもつ平底の底部片。40～42は胎土に植物繊維と白色粉末を含み、条痕文系土器群の内、鶴ヶ島台式以降の条痕文系土器群である。

焼土・ピット出土土器（第10図）

1と2はP1出土で、共に指頭圧痕が著しい阿玉台Ⅰb式の胴部細片。3と4はP2出土で、共に連続爪形文をもつ。5と6はP3出土で阿玉台系の胴部片と底部片である。8と9はP6出土で、8は波頭下に高い隆帯をもち9は胴部片を側面調整した小形円板で、共に胎土に金雲母を多く含む。10～12はP7出土で、10にはヒダ状指頭圧痕が、11には波状文と指頭圧痕、12にも指頭圧痕がある。13～20はP8出土で、口縁部片の13と14には角押文があり、15～17には押引きによる沈線や波状文がある。18には小三角押文列、19に連続爪形文がある。20は口縁に続く隆帯沿いに幅広押引文がある。

22はP11出土の浅鉢口縁部で押引文列がある。23はP13出土でクランク状隆帯沿いに押引文が片側にある。24はP15出土の無文胴片である。25～27はP16出土でいずれも複列の押引文をもつが、押引波形式と指頭圧痕が著しい。28はP17出土で幅広押引文をもち、三角形区画隆帯沿いに三角押文がある。30～33はP18出土で、30は口縁沿いの複列の押引文のほか波頭からの押引文を加える。31には幅広押引文があり、32には細く深い斜位沈線のほか、小三角押文が複列施される。33は指頭圧痕以外は不明。34～42はP19出土で、34と35は同一個体で断面三角形の隆帯沿いに片側の深い押引文を複列入れ、押引きによる波状文をもつ。36は楕円形区画端部で、38は無文で指頭圧痕のみ。38～41は胴部に三角形区画を連続する類で、幅広押引文と区画内側の三角押文がセットになり、40は幅広押引文。41は三角押文部のみの細片。42は三角文による波形文。43と44はP25出土。43は隆帯沿いの角押文と区画内側押引文列の小片。44は深鉢底部で底に網代または

繊維圧痕がある。45～47はP28出土で、45には口頸の楕円区画沿いに片側の深い押引文、口縁下部に押引きによる波状文がある。46は口縁下部の舌状貼付が残る。47は区画内に深く、細い押引文列のある口縁部。48と49はP29出土で、48は金雲母を特に多く含み、管状工具押圧痕と指頭圧痕が残る。49は懸垂隆帯沿いに細長押引きがある。50はP32出土で、楕円形区画沿いなどに大小の角押文を多用する。51と52はP34出土で、隆帯沿いの押引文がある。53はP35出土で底に近い胴下部片で、懸垂文沿いに押引沈線がある。

ピット出土土器は、P11やP32では貉沢式の出土があるものの、阿玉台Ⅱ式・勝坂Ⅰ（新道式）がほとんどである。

遺構外の土器（第11図）

第11図は阿玉台系土器群である。1は波状口縁深鉢で、単列の角押文を噴水状に配する。2は口縁と隆帯沿いに1列を角押文・区画内をV字状に角押文列で充鎮する。3は断面三角形の隆帯を貼付けてクラック状の懸垂文をもち、ヒダ状指頭圧痕が著しい。1～3は阿玉台Ⅰb式の特徴をもつ。4は扇状把手で口唇上に刻目をもつほか、内側に複列の押引文をもっている。5は口縁と口縁部文様帯の区画内に、高い角度の押引文を多用する。6は口縁部の長楕円区画沿いに複列の押引文を入れ、胴上部に押引きによる波状文をつ

くる。

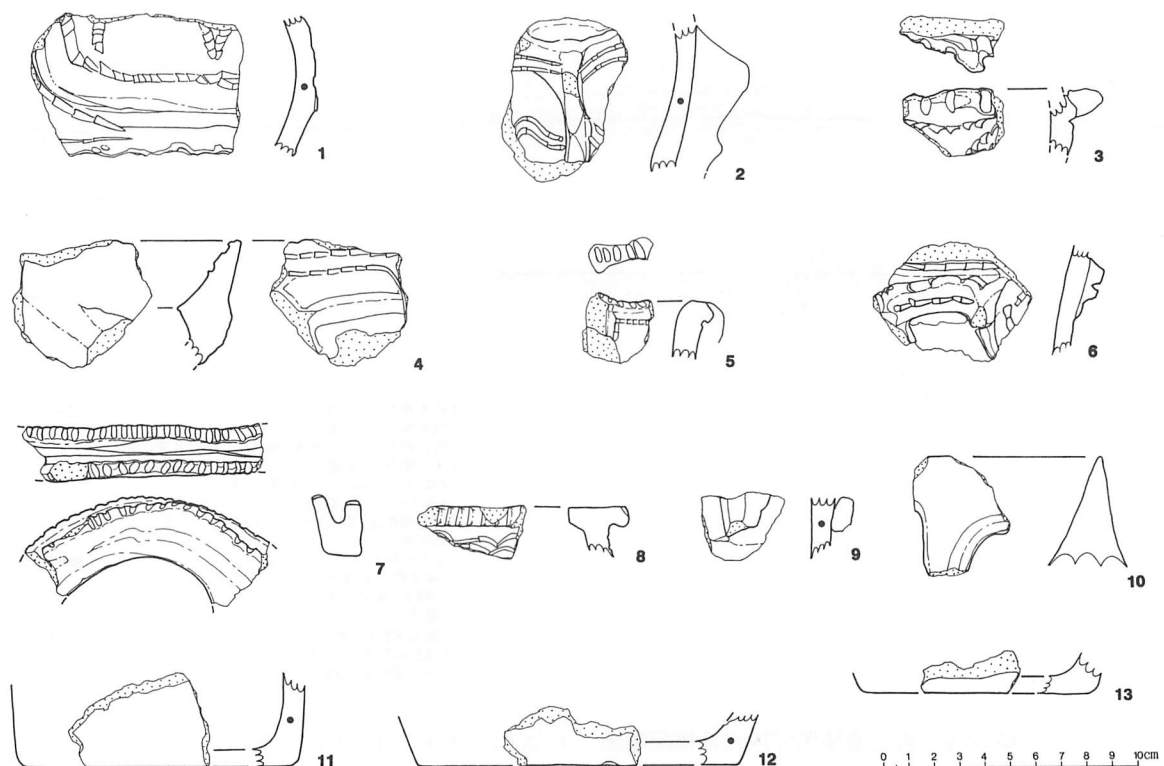
7は高い隆起帯を突出させた口縁部で、複列の押引文列を入れるほか複列の波状文を入れる。8は高い円孔付山形把手部である。9～10は口縁上に押引きによる刻目を入れ、隆帯沿いに片側の深い押引文をもつ。11～13は深鉢の底部である。

3 亀居遺跡第57地点

（1）調査の概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2003年4月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北端に位置するが、現状を確認した所、現地は既存の舗装駐車場であった。原因者と協議の結果、店舗基礎部分のみ掘削し、舗装部分は掘削しないため、基礎部分のみ試掘調査を実施した。

試掘調査は2003年4月24日に行なった。重機で舗装を除去後、人力で表面精査した結果、溝跡らしき遺構を検出した。遺構の性格を確認するため掘り下げたところ土地境の「根切り溝」であった。確認面まで60cmを測る。その他に遺構は確認されなかったため、慎重工事とし、写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。



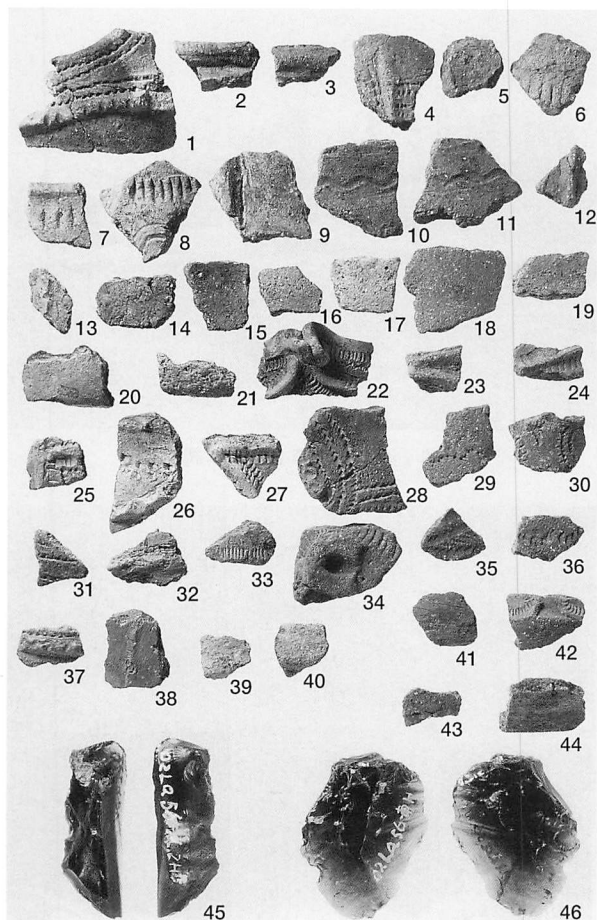
第11図 亀居遺跡第56地点遺構外出土遺物（1/3）



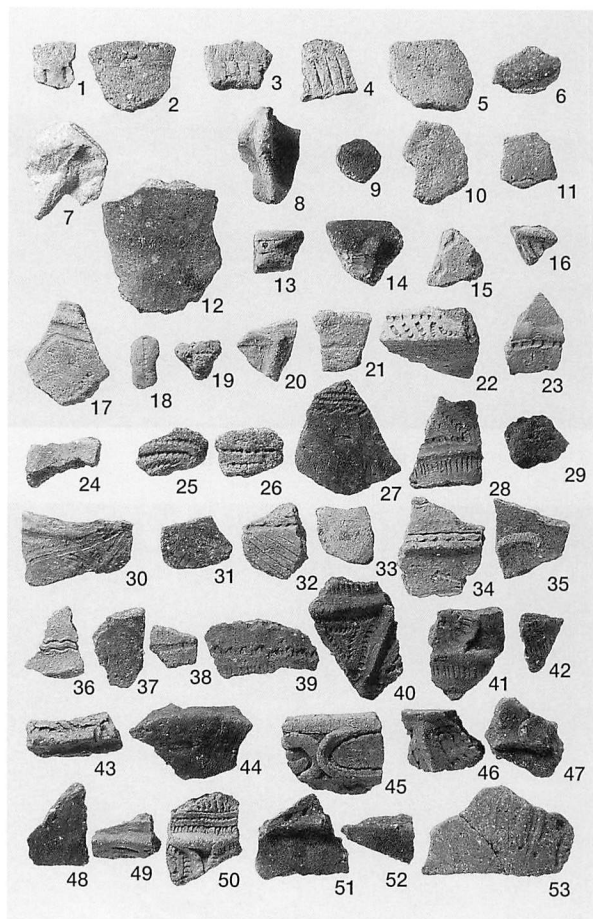
亀居遺跡第56地点調査区北側全景



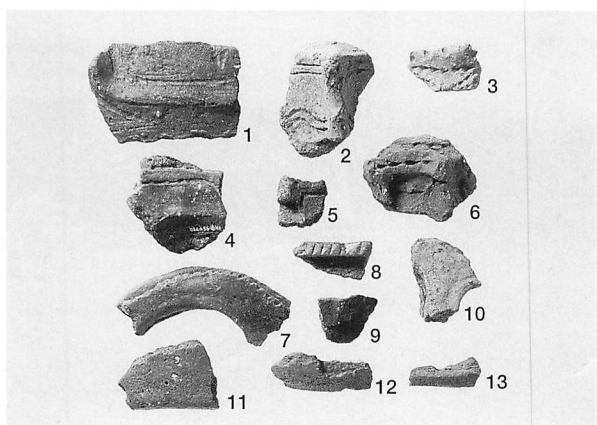
亀居遺跡第56地点調査区南側全景



亀居遺跡第56地点竪穴状遺構出土遺物



亀居遺跡第56地点ピット出土遺物



亀居遺跡第56地点遺構外出土遺物



亀居遺跡第57地点試掘調査